



Contents

- *保護者に知って欲しい!
パノラマX線写真でわかる未来
- *コラム「パノラマX線検査の被曝線量」

歯と歯並びの ニュースレター Vol.9

発行元
公益社団法人 日本臨床矯正歯科医会
〒107-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9
(一財)口腔保健協会内
TEL.03-3947-8891 FAX.03-3947-8341
https://www.jpao.jp/
2022.3.31 発行



2021年秋のプレスセミナーより

「保護者に知って欲しい! パノラマX線写真でわかる未来」

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会(会長:野村泰世)では、2021年11月8日(月)、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能再建学講座口腔放射線医学分野講師 大林尚人先生をゲストスピーカーに招き、メディア各社に向けたセミナーを開催しました。今回はその内容を踏まえ、成長期におけるパノラマX線写真検査の大切さをご紹介します。



本会会長
野村 泰世



本会学術理事
高橋 滋樹



東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
顎口腔機能再建学講座
口腔放射線医学分野講師
大林 尚人 先生

歯の生えかわり期は 口の中の異常を見つける大切な時期

厚生労働省歯科疾患実態調査(2016年)によると、5~14歳の未処置むし歯の保有率は1993年と比較すると、ほぼ半減しています。むし歯の減少は喜ばしいことですが、それが歯科医院を訪ねる機会の減少や、「パノラマX線写真」による検査機会の減少につながることは歯の健康を保つうえでのリスクといえます。

パノラマX線写真とは、口腔内全体を1枚の写真に映し出すタイプのX線(レントゲン)画像のことで、成長期の子どもの場合、X線写真に写った歯や骨の状態から、後続する永久歯の位置や歯の数の過不足などを確認することができます。

乳歯から永久歯に生えかわる「混合歯列期」は“口の中の異常”を発見する大切な期間でもあるのです。

歯の本数や位置などの 異常を見つけたとき矯正歯科が行うこと

混合歯列期にみられる口の中の異常としては、時期が来ても乳歯が長く残っている、乳歯が抜けたにもかかわらず後続の永久歯が生えてこない(萌出遅延)、ほかの歯が隣から寄って生えてきて本来その場所に生えるべき永久歯のスペースがなくなってしまうなどさまざまあり、なかには歯胚(歯と歯周組織のもととなる細胞)の嚢胞化や、歯牙腫(顎の骨に発生する良性腫瘍 裏面参照)が見つかることもあります。こうした異常を発見するためには有効なのが、パノラマX線写真です。

ここからは症例をベースに、パノラマX線写真によってどのような異常が発見されたかをご紹介します。

症例 1

萌出遅延が気になり来院。 検査によって別の問題がわかったケース

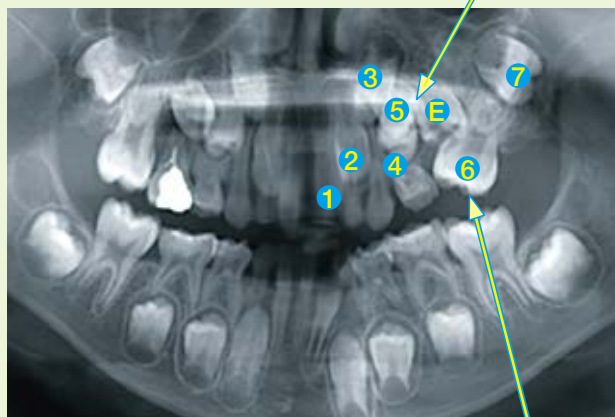
- Aさん:9歳1か月
- 主訴:左上の前歯が生えてこない

萌出遅延は、混合歯列期によくある症状です。この症例も、上顎右側の中切歯(前から1番目)は生えているのに、左側の同じ歯が生えていない状態でした。パノラマX線写真を撮ると上顎前歯は萌出中で問題のないことがわかりましたが、上顎左側の⑥(第一大臼歯)の生えてくる方向が悪く、手前の第二乳臼歯⑤のスペースが失われて、後続する永久歯である⑥(第二小臼歯)が生えることができない状態であることがわかりました。

★パノラマX線写真を撮る利点

このまま放置すれば⑥(第二小臼歯)の萌出が遅れ、また⑤が生えてくるべき場所が失われていたため、永久歯への完全な生えかわりが困難だったと思われる。

第二乳臼歯・第二小臼歯の萌出スペースが失われ、萌出できずにとどまっている



第一大臼歯が手前に大きく傾いて生えてしまっている